



2017年3月期 決算説明資料

(注) 見通しに関する注意事項

本説明会・資料における当社グループの今後の計画・見通し・戦略等、将来に関する記載は、当社が現時点において把握可能な情報をもとに判断したものであり、これらは様々なリスクや不確実性が内在しております。

従って、経営環境の変化、未知のリスクの顕在化、およびその他様々な要因により、実際の業績等の結果は大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

なお、表示の数値は、億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

2017年5月16日
兼松株式会社

<http://www.kanematsu.co.jp/>

1.2017年3月期 決算概要

1 - 1. 2017年3月期 決算概要 (P/L)

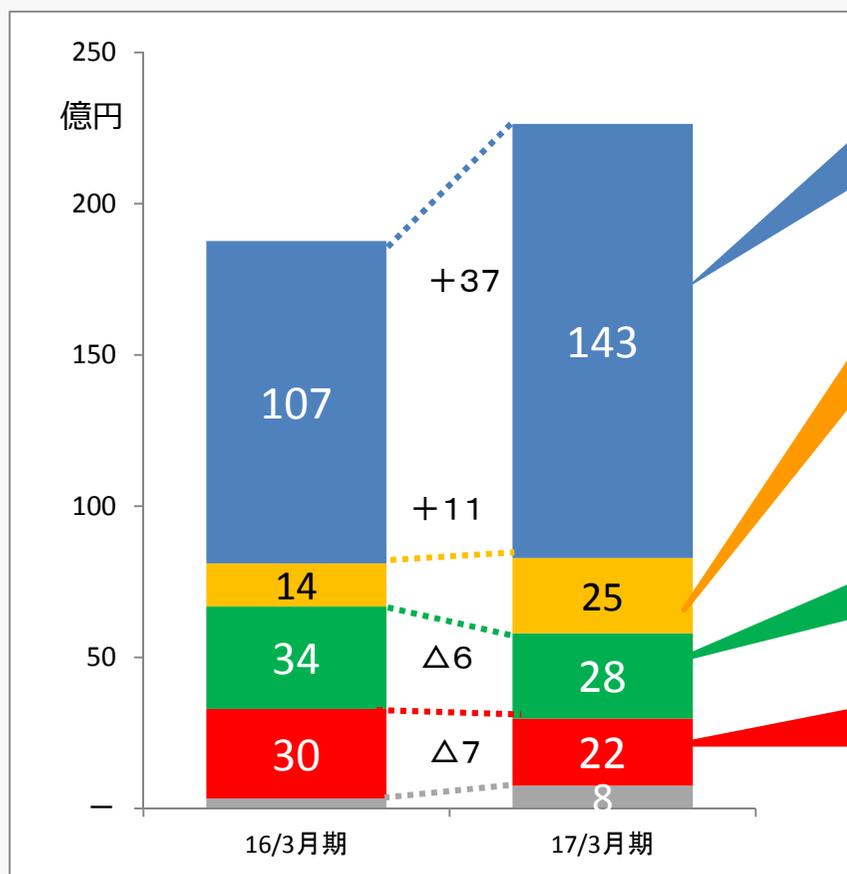
- ✓ 営業活動に係る利益は前期比+39億円の増益
- ✓ 投資の時価評価に伴う金融費用の計上、および持分法投資損失の計上により、当期純利益は前期比△9億円の減少

| (単位:億円) | 16/3月期 実績 | 17/3月期 実績 | 前期対比 |
|-------------------|--------------|--------------|-------|
| 収益 | 6,684 | 6,756 | + 72 |
| 売上総利益 | 862 | 1,001 | + 139 |
| 営業活動に係る利益 | 188 | 226 | + 39 |
| 金融収益・費用 | △ 13 | △ 28 | △ 14 |
| 持分法による投資損益 | 7 | △ 20 | △ 27 |
| 税引前利益 | 181 | 179 | △ 2 |
| 当期純利益 | 108 | 103 | △ 5 |
| 親会社の所有者に帰属する当期純利益 | 90 | 80 | △ 9 |

1 - 2. 2017年3月期 決算概要 (セグメント利益)

✓ 電子・デバイス部門は好調、食料部門も前期の不調から回復

セグメント営業活動に係る利益



電子・デバイス <増収増益>

ICTソリューション事業は製造業向け取引が順調に推移。また、モバイル事業も事業規模の拡大により順調に推移する一方、半導体部品・製造装置事業は苦戦。

食料 <増収増益>

食品事業は堅調に推移。畜産事業が市況の回復を受け、先期の落ち込みから回復。一方、食糧事業は国内飼料価格の下落により苦戦。

鉄鋼・素材・プラント <減収減益>

プラント事業は工作機械・産業機械取引が堅調に推移。エネルギー事業も冬場の需要に支えられ順調に推移。鉄鋼事業は原油価格の低迷を受け油井管事業が苦戦。

車両・航空 <減収減益>

車両・車載部品事業は順調に推移。航空・宇宙事業は航空機部品取引が長期契約の端境期のため減益。

1 - 3. 2017年3月期 決算概要 (B/S)

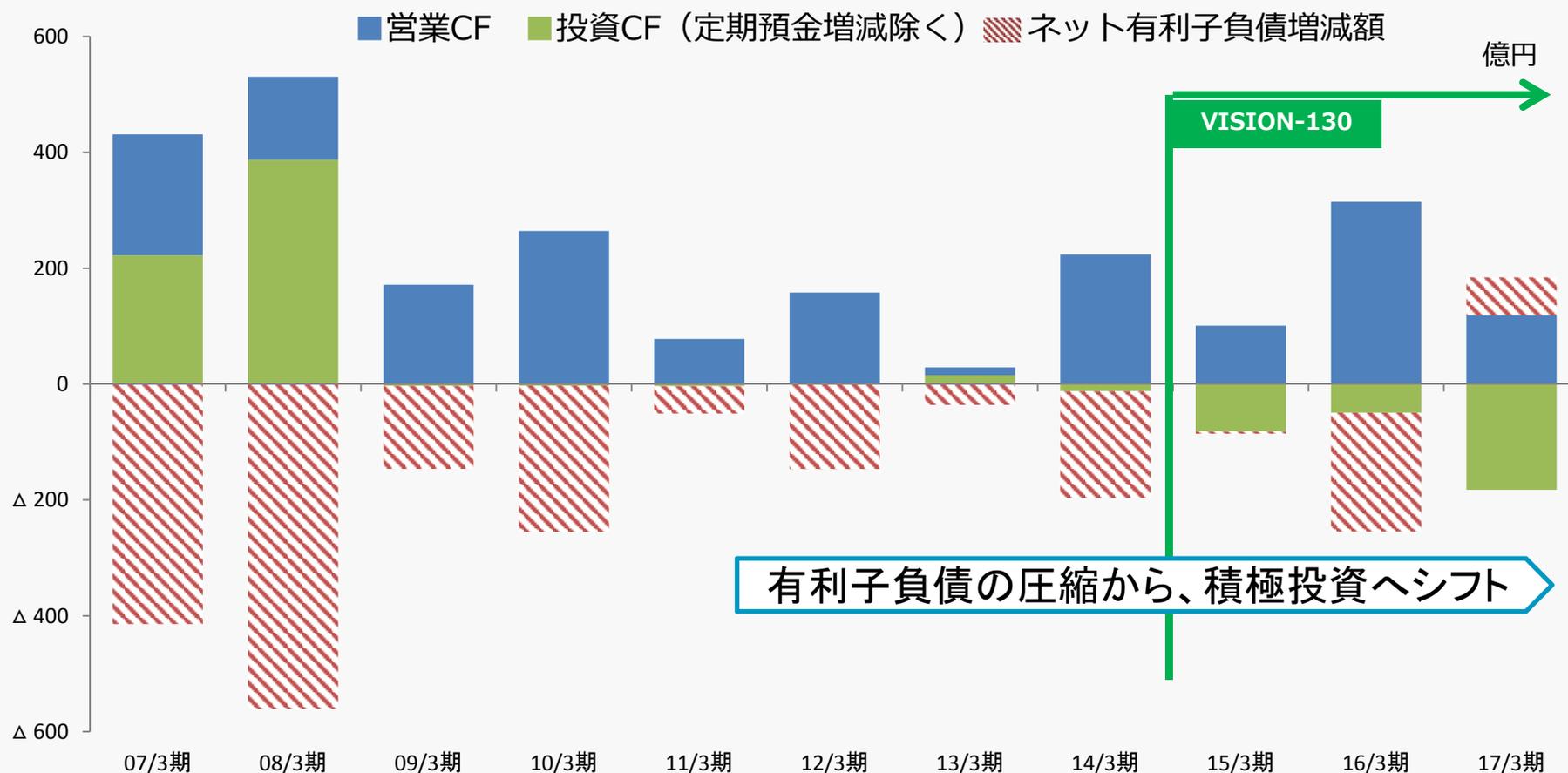
- ✓ 期間利益の積み上げや株価の上昇等によるその他の資本の構成要素の増加により、自己資本は1,000億円を突破
- ✓ ネットDERは0.5倍台と引き続き低水準を維持

| (単位:億円) | 16/3月末 実績 | 17/3月末 実績 | (単位:億円) | 16/3月末 実績 | 17/3月末 実績 |
|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 総資産 | 4,436 | 4,797 | グロス有利子負債 | 1,369 | 1,338 |
| 総資本 | 1,207 | 1,299 | ネット有利子負債 | 488 | 554 |
| 自己資本 (※1) | 916 | 1,004 | ネットDER (※3) | 0.53倍 | 0.55倍 |
| 1株当たり自己資本 | 217.7円 | 238.4円 | ROE | 9.9% | 8.4% |
| 自己資本比率 (※2) | 20.6% | 20.9% | | | |

※1 自己資本は、資本の「親会社に帰属する持分」、※2 自己資本比率=自己資本÷総資産、
※3 ネットDER=ネット有利子負債÷自己資本

1 - 4. 2017年3月期 決算概要 (C/F)

✓ 4月1日付で実行したダイヤモンドテレコム社の買収等に伴い
投資CFは147億円のキャッシュアウト



2.2018年3月期 見通し

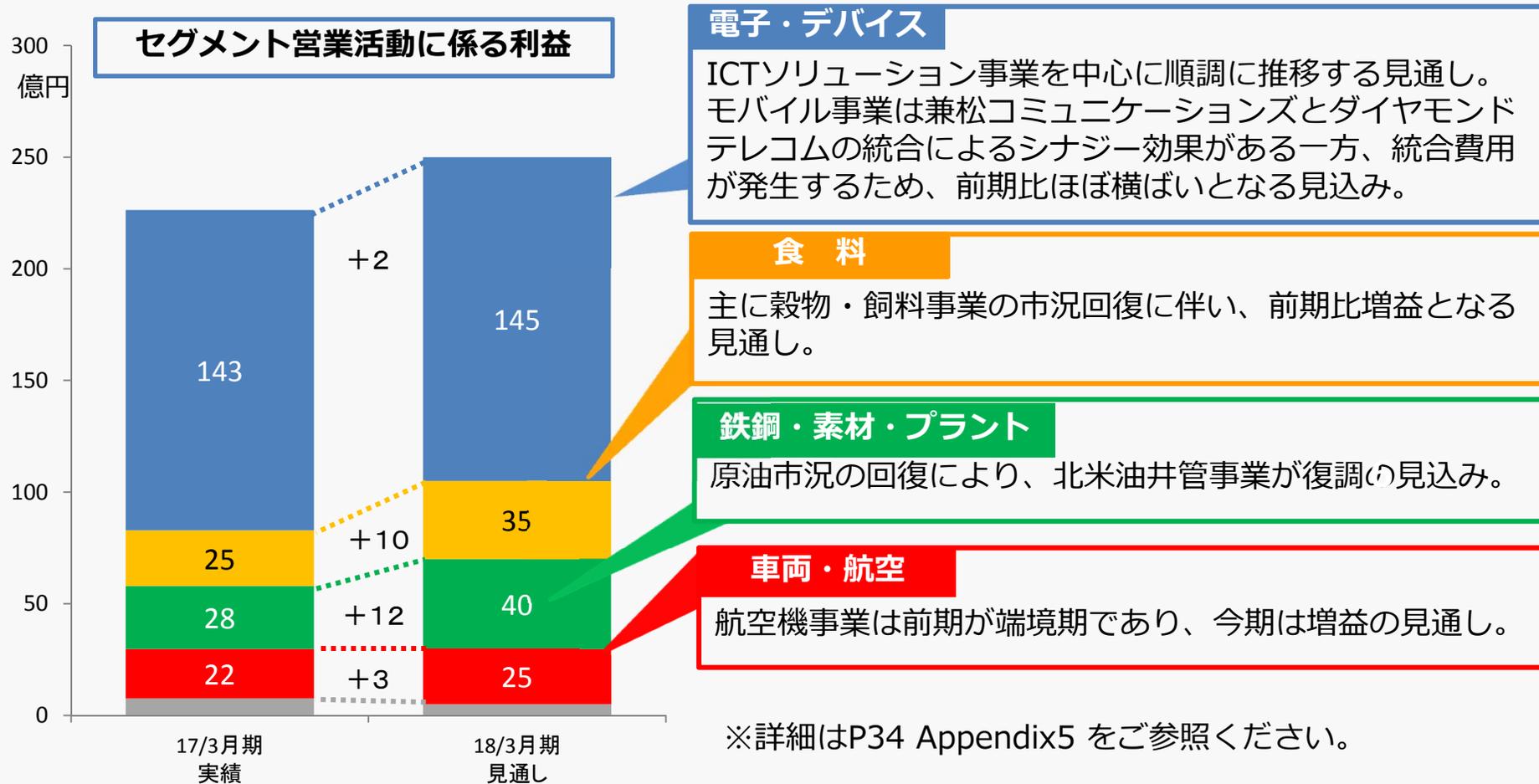
2-1. 2018年3月期 見通し

- ✓ 営業活動に係る利益は順調に推移する見通し
- ✓ 17年3月期に計上した一過性の金融費用や持分法投資損失がなくなり、税引前利益以下の段階利益も増益を見込む

| (単位:億円) | 17/3月期 実績 | 18/3月期 見通し | 増減 |
|-------------------|--------------|---------------|-------|
| 収益 | 6,756 | 7,000 | + 244 |
| 営業活動に係る利益 | 226 | 250 | + 24 |
| 税引前利益 | 179 | 235 | + 56 |
| 親会社の所有者に帰属する当期純利益 | 80 | 120 | 40 |

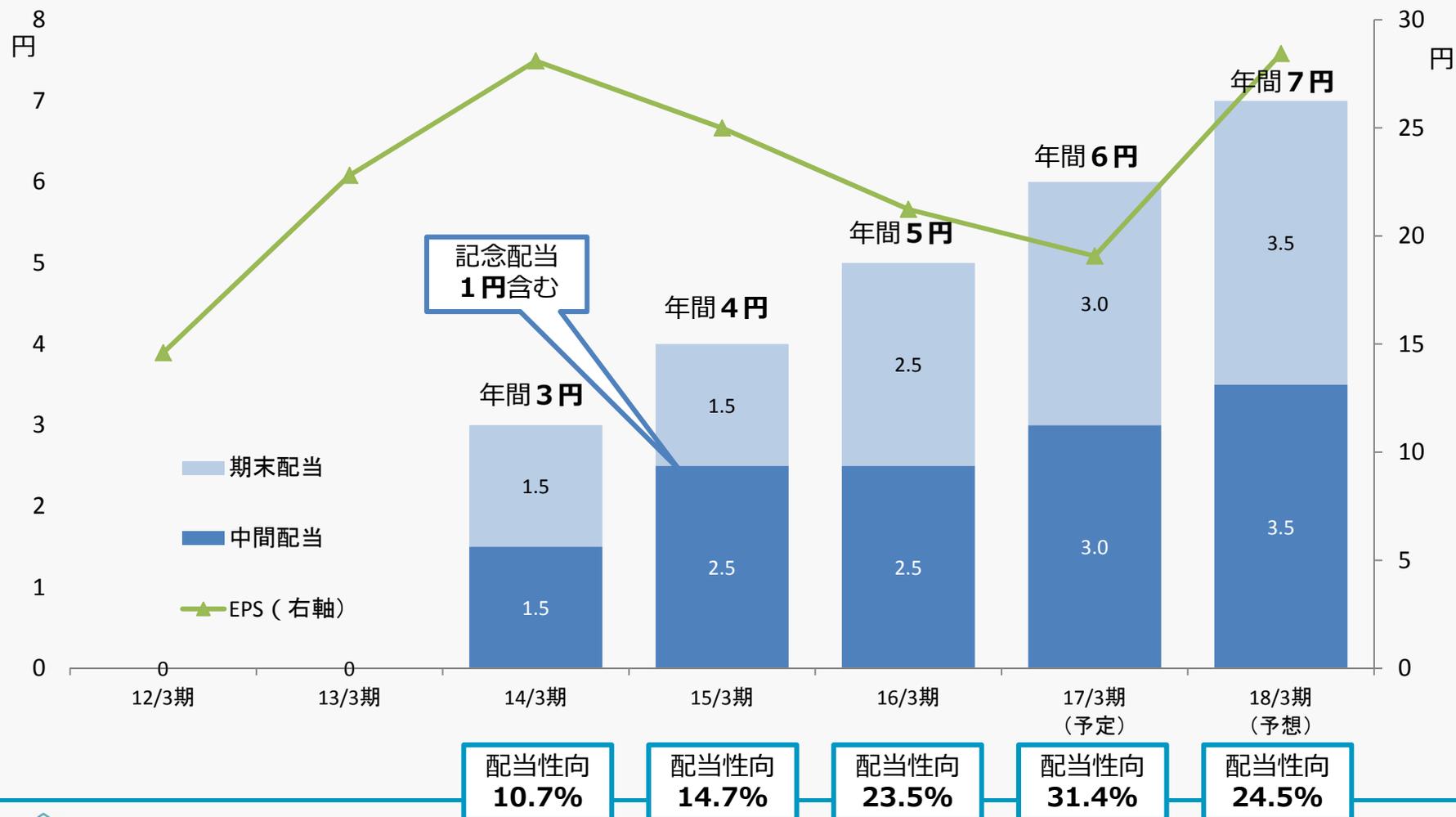
2-2. 2018年3月期 見通し (セグメント利益)

- ✓ 電子・デバイスはICTソリューション事業を中心に引き続き好調
- ✓ 他のセグメントも前期比増益を見込む



2-3. 2018年3月期 見通し（配当方針）

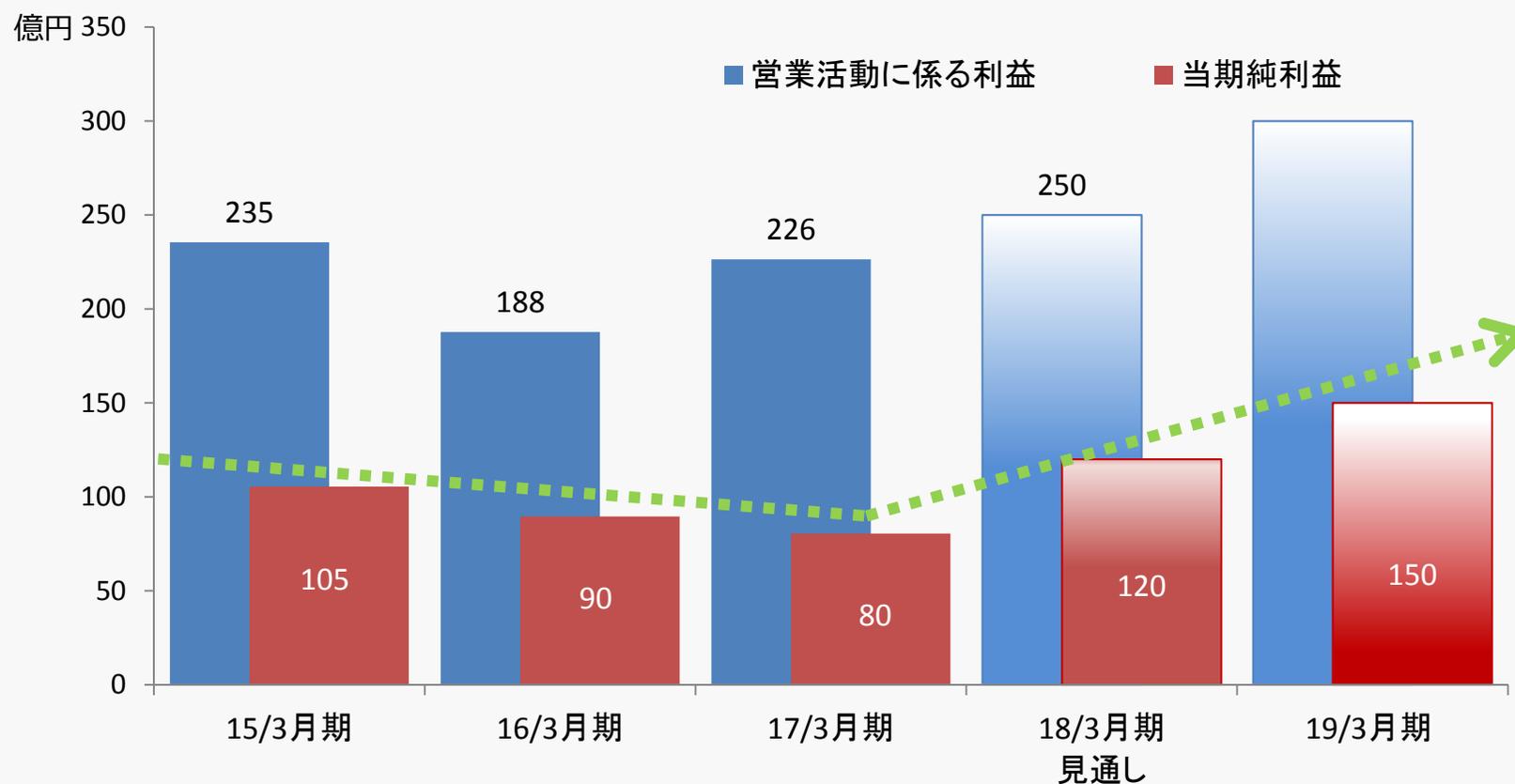
- ✓ 連結配当性向25%を目処に、安定的かつ継続的に実施
- ✓ 18年3月期の配当金（予想）は、年間7円を予定



3. VISION-130 進捗状況

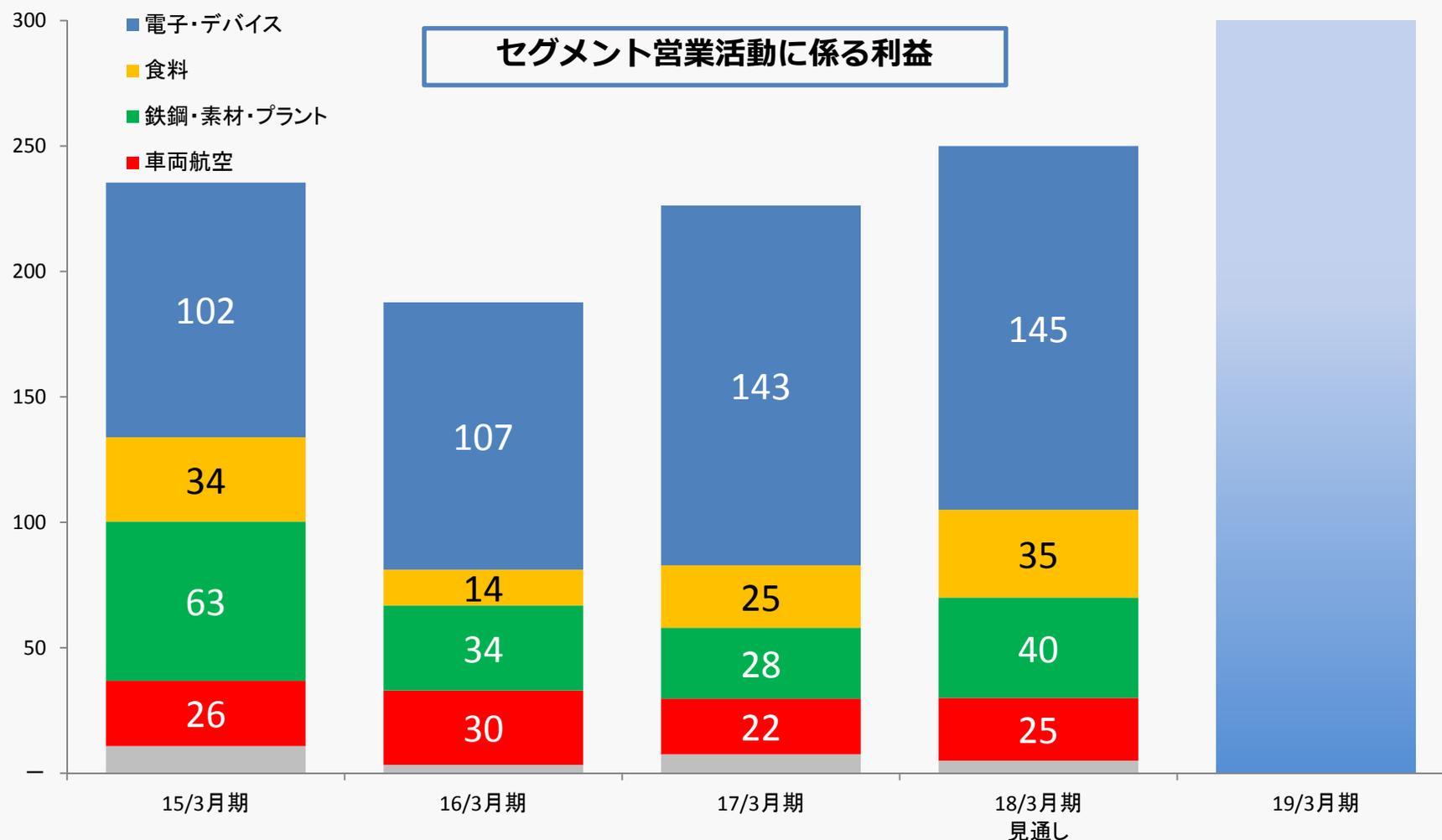
3 - 1. VISION-130 進捗状況 (P/L)

- ✓ 営業活動に係る利益は16年3月期の落ち込みから回復。
- ✓ 当期利益の減益は一過性の要因によるものであり、18年3月期(4年目)からは、着実な事業拡大を目指す。



3 - 2. VISION-130 進捗状況 (セグメント利益)

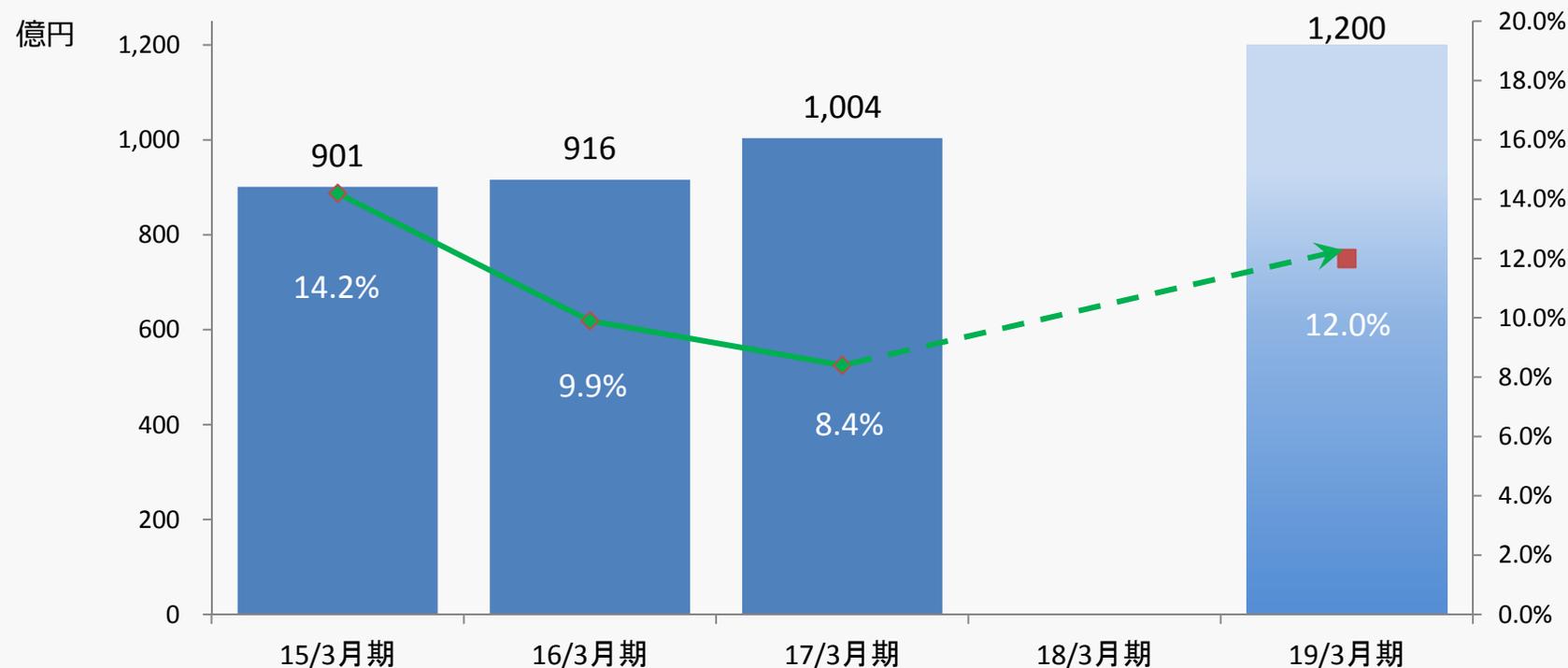
✓ 電子・デバイスを中心に、収益拡大を進める



3-3. VISION-130 進捗状況 (B/S)

| | 15/3月末 (1年目実績) | 16/3月末 (2年目実績) | 17/3月末 (3年目実績) | 19/3月末 (VISION-130目標) |
|----------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------------|
| 自己資本 (※) | 901億円 | 916億円 | 1,004億円 | 1,200億円 |
| ネットDER | 0.75倍 | 0.53倍 | 0.55倍 | 1.0倍未満 |
| ROE | 14.2% | 9.9% | 8.4% | 12.0% |

(※) 自己資本は、資本の「親会社の所有者に帰属する持分」



3 - 4. VISION-130 進捗状況（事業投資実績）

✓ 重点6分野＋新機軸を中心に積極的に事業投資を実行

| (単位：億円) | VISION-130 | | |
|------------|------------|--------|--------|
| | 15/3月期 | 16/3月期 | 17/3月期 |
| 電子・デバイス | 48 | 24 | 134 |
| 食料 | 4 | 20 | 2 |
| 鉄鋼・素材・プラント | 0 | 0 | 0 |
| 車両・航空 | 5 | 0 | 18 |
| その他 | 0 | 3 | 1 |
| その他固定資産等 | 32 | 5 | 8 |
| 投資キャッシュフロー | 89 | 42 | 147 |

電子・デバイス部門

<ICTソリューション事業>

15/3月期：日本オフィス・システムを完全子会社化(総額27億円)

<モバイル事業>

16/3月期：アルファグループに出資(4億円)

17/3月期：ダイヤモンドテレコム社を買収(174億円)

<技術支援(カメラ関連事業)>

15/3月期：兼松日産農林(現 兼松サステック)を子会社化(15億円)
 カンタツの転換社債・優先株を引き受け(総額25億円)

<プリンター事業(日系メーカー等の海外進出)>

17/3月期：AZ-Starと共同でジー・プリンテックの株式を取得(6億円)

食料部門

<アジアの食市場>

- ・ 本邦外食チェーンとインドネシア国内向けFC事業展開
- ・ アジア向け飼料販売に向けた安定供給先との連携強化

<TPP対応(海外食市場への進出)>

- ・ 6次化事業のピースマイルプロジェクトへの参画

その他

<日系メーカー等の海外進出>

16/3月期：アジア進出支援ファンド(AZ-Star)へ参画

3 - 5. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

✓ 強みを有する得意分野に注力し、事業の横展開・深掘りを推進

得意4部門

電子・デバイス

食料

鉄鋼・素材・プラント

車両・航空

主要重点6分野+新機軸

ICTソリューション

モバイル

アジアの食市場

北米シェール市場

グローバル・モータリゼーション

日系メーカー等の海外進出

新機軸

技術支援

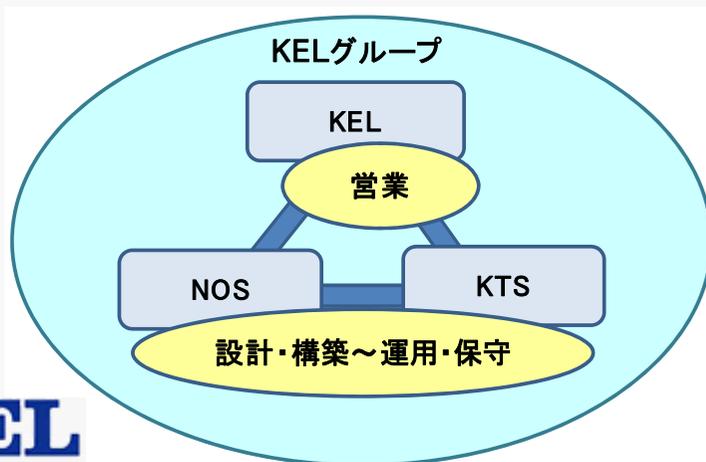
TPP対応（海外食市場への進出）

3-6. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

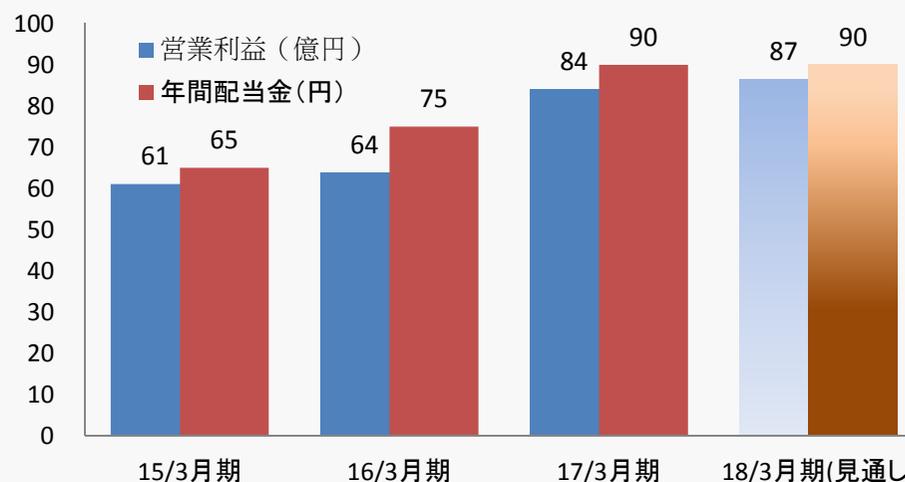
ICTソリューション

✓ KELグループ内の組織再編により、一層の効率経営を推進

- ✓ 主要子会社の兼松エレクトロニクス(KEL)は、2015年7月に日本オフィス・システム(NOS)を100%子会社化。同じく子会社であるケー・イー・エルテクニカルサービス(KTS)も含めた組織再編を実行し、KELグループとしての一体経営を推進。
- ✓ KELグループ内における営業やエンジニアなどの人的資源を適正に配置することで有効活用を推進、設計・構築・導入から運用・保守までITに関するワンストップ・サービスの提供を通じて、一層の収益力強化を図る。
- ✓ VISION-130発表以降の同社営業利益は、15/3月期の61億円から17/3月期の84億円へ順調に増加しており、年間配当金額も65円から90円へと増加している。



KEL
KANEMATSU ELECTRONICS LTD.

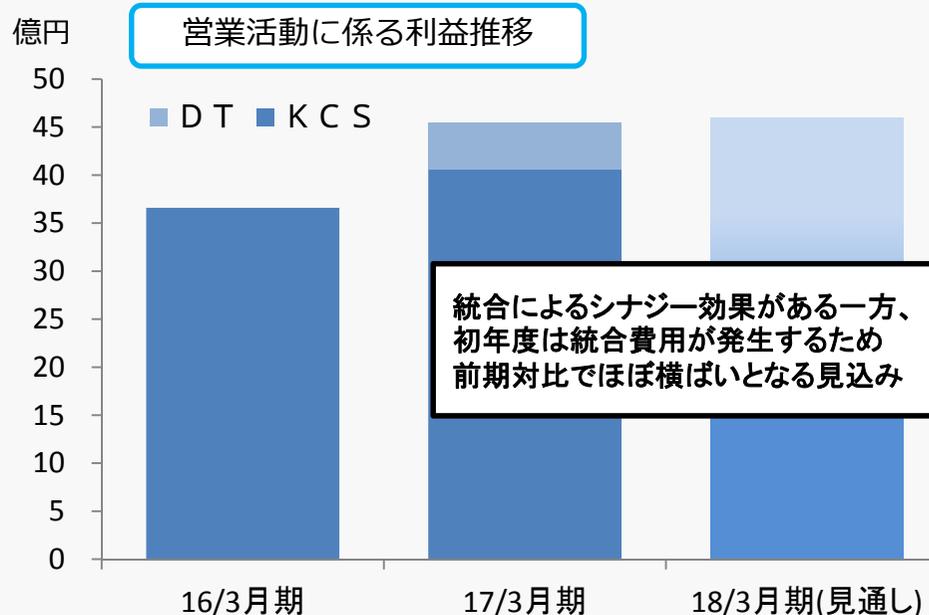
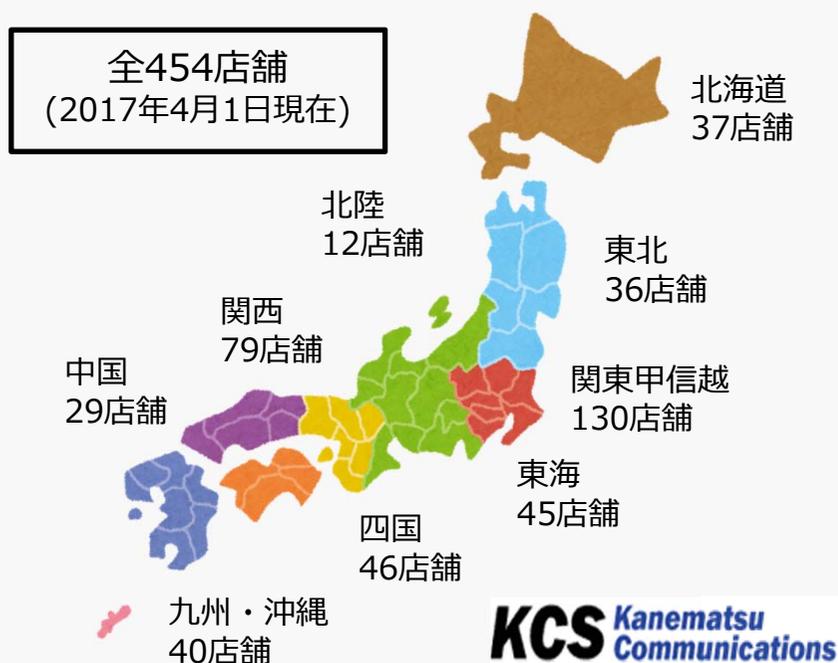


3-7. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

モバイル

✓ 2017年4月1日付で兼松コミュニケーションズ(KCS)とダイヤモンドテレコム(DT)を統合、スケールメリットを活かした収益の拡大を目指す。

- ✓ 2017年4月1日付で、KCSによるDTの吸収合併を実施。
- ✓ 新KCSの店舗数・販売台数は、業界トップクラスを窺う規模となる。



3 - 8. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

北米シェール

✓ 市況の回復に伴い、復調を見込む

- ✓ 15/3月期以降の原油価格の大幅下落に伴い、北米シェール向けの油井管事業は苦戦が続いていたが、2016年5月を底にリグカウントは増加しており、受注の回復が見込まれる。



3-9. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

航空・宇宙ビジネス

✓ 米Vectorと業務提携、小型ロケット打ち上げサービスに参入

- ✓ 小型衛星専用ロケットの開発や打ち上げ、関連サービスを手がける米国のVectorと業務提携に合意。
- ✓ Vector社では、昨今需要が高まっている小型衛星の打ち上げ用に小型ロケットの開発を行っており、2018年より打ち上げサービスの提供を開始する予定。
- ✓ 当社は、Vectorとの提携をきっかけにロケット打ち上げサービスに参入し、宇宙関連ビジネスにおける顧客基盤の拡大や同サービスの日本市場への展開を目指す。



試作機の打ち上げ



3-10. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

日系メーカー等の海外進出

✓ AZ-Starが第二号案件を実行

- ✓ 当社とAZ-Starの共同で、JVCケンウッドの子会社であるジー・プリンテックの全株式を取得、同社のカードプリンター事業を承継した。
- ✓ 世界の高品位カードプリンター市場は、新興国を中心に伸張が見込まれており、独自の再転写技術を有するジー・プリンテックは業績拡大が見込まれる。
- ✓ また、カードプリンターの設計・開発機能を有する同社と海外市場への販売網を有する兼松の電子機器部との協業により、更なる事業の拡大を図っていく。

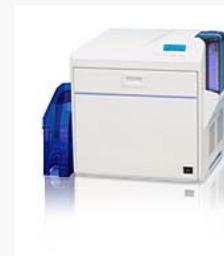
<ジー・プリンテック 会社概要>

商号：株式会社ジー・プリンテック

設立：2016年12月6日 ※JVCケンウッドのカードプリンター事業を承継する形で設立

従業員数：52名（2017年3月31日現在）

事業内容：カードプリンター及び関連機器の開発・製造・販売(OEM)



<AZ-Star>

- 2015年2月に設立
- 日本企業の優れた技術・サービスをアジア進出によって活性化し、アジアの成長を日本国内に取り込むことを目的とする

3-11. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

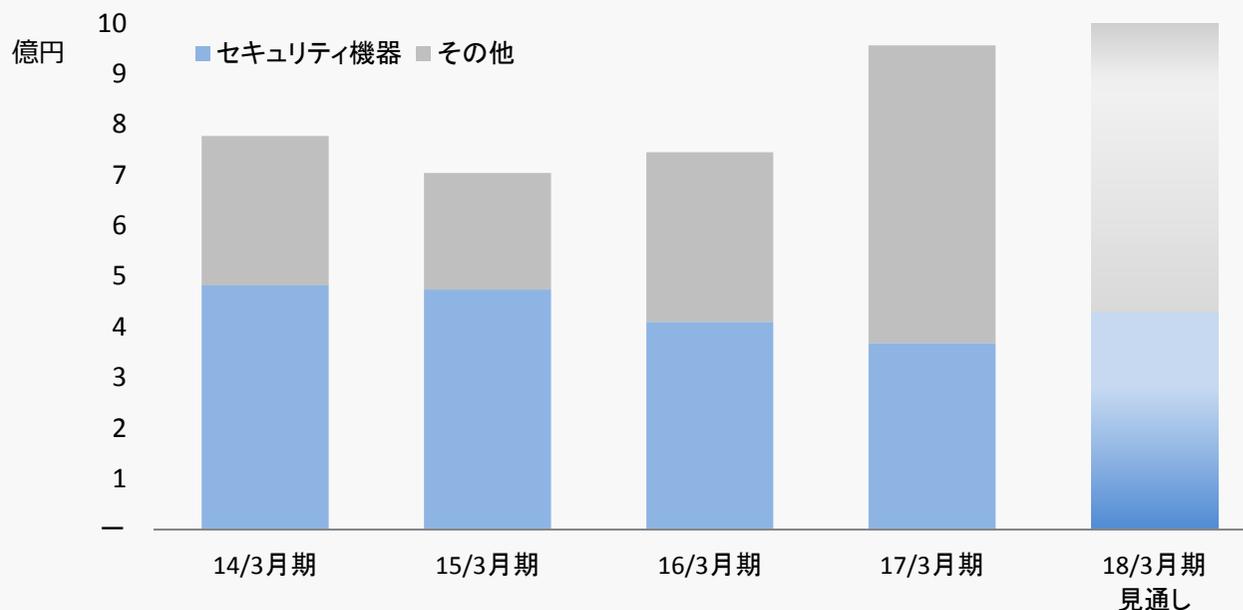
技術支援

✓ 兼松日産農林は兼松サステックに商号変更、主力の監視カメラ事業を中心に更なる業績拡大を図る

- ✓ 2014年12月に兼松日産農林（現 兼松サステック）を子会社化し、今後拡大が見込まれる「監視カメラ市場」の需要を取り込んだ。
- ✓ 17/3月期は、ジオテック（地盤改良）事業および木材加工事業も堅調に推移し、前期比増益となった。



セグメント利益推移

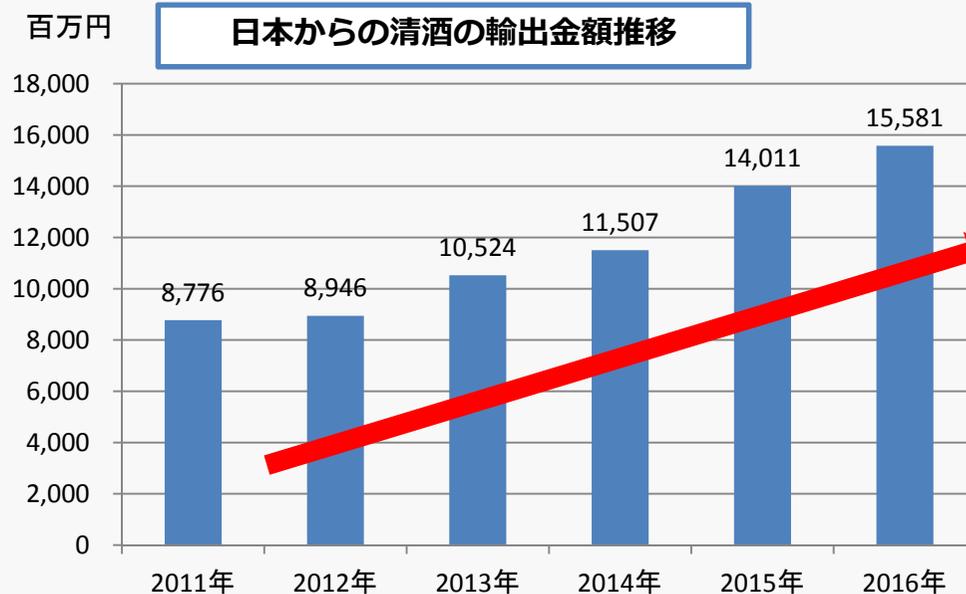


3-12. VISION-130 進捗状況（主要分野の取り組み）

海外食市場への進出

✓ ECサイトを通じた清酒の輸出事業を開始

- ✓ 2017年3月より、(株)MONSTER DIVEと共同で越境ECサイト『SAKE NETWORK』を立ち上げ、清酒の輸出事業を開始。
- ✓ 当社は海外バイヤーに対するマーケティングや商品の物流を担い、国内酒蔵の海外進出のサポートおよび海外市場への清酒の普及に努めていく。



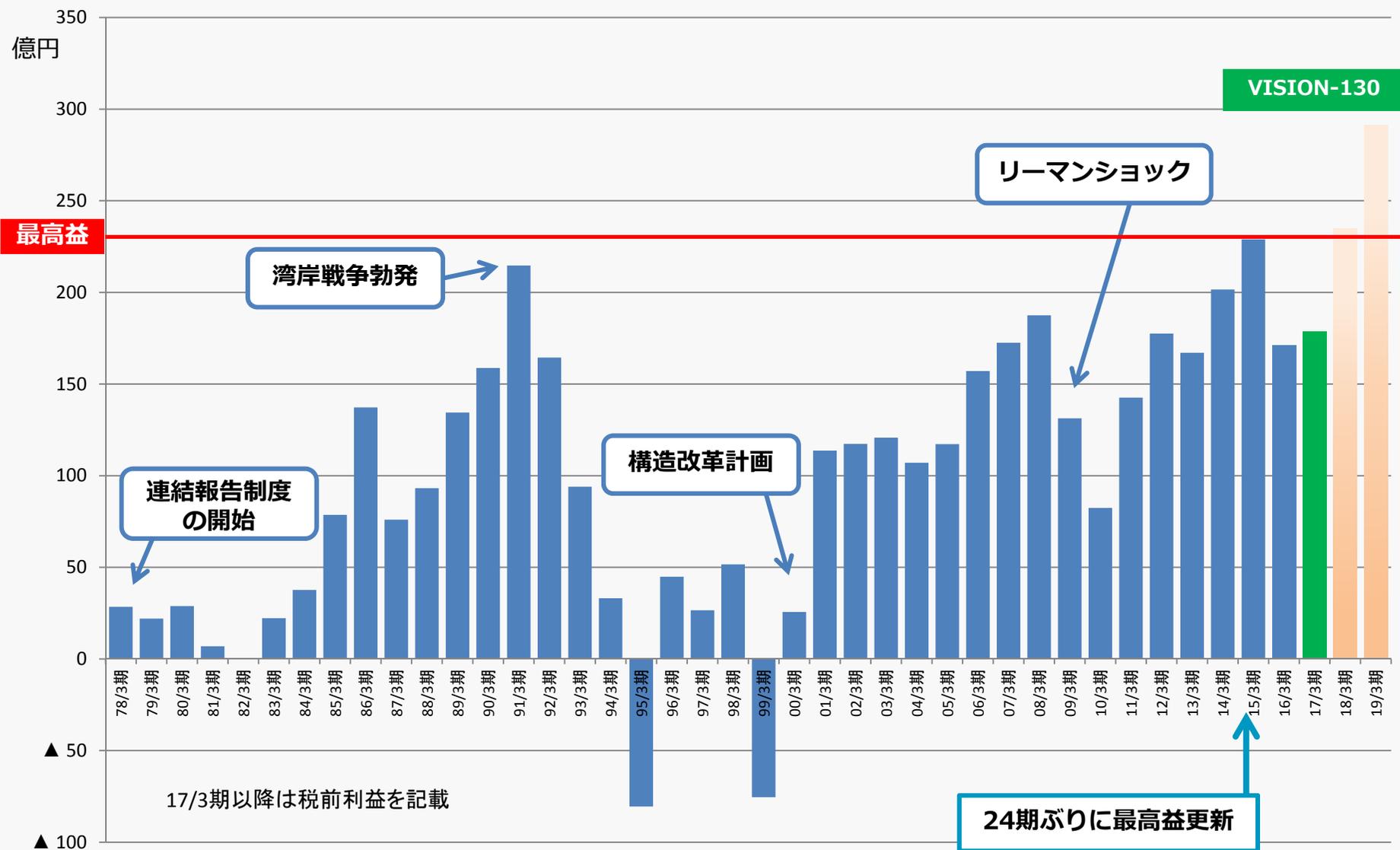
出展: 財務省貿易統計

<MEMO>

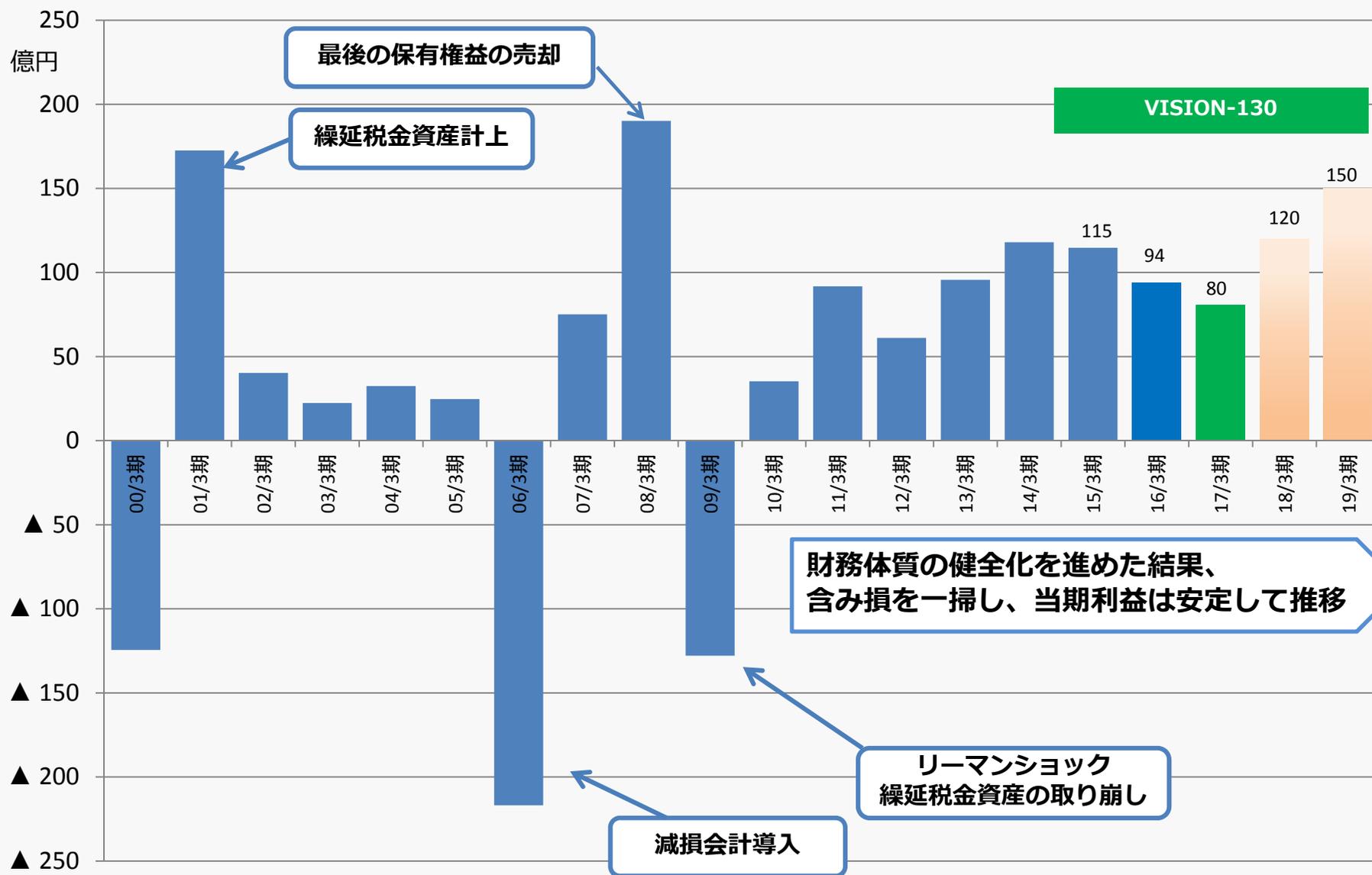
<MEMO>

Appendix

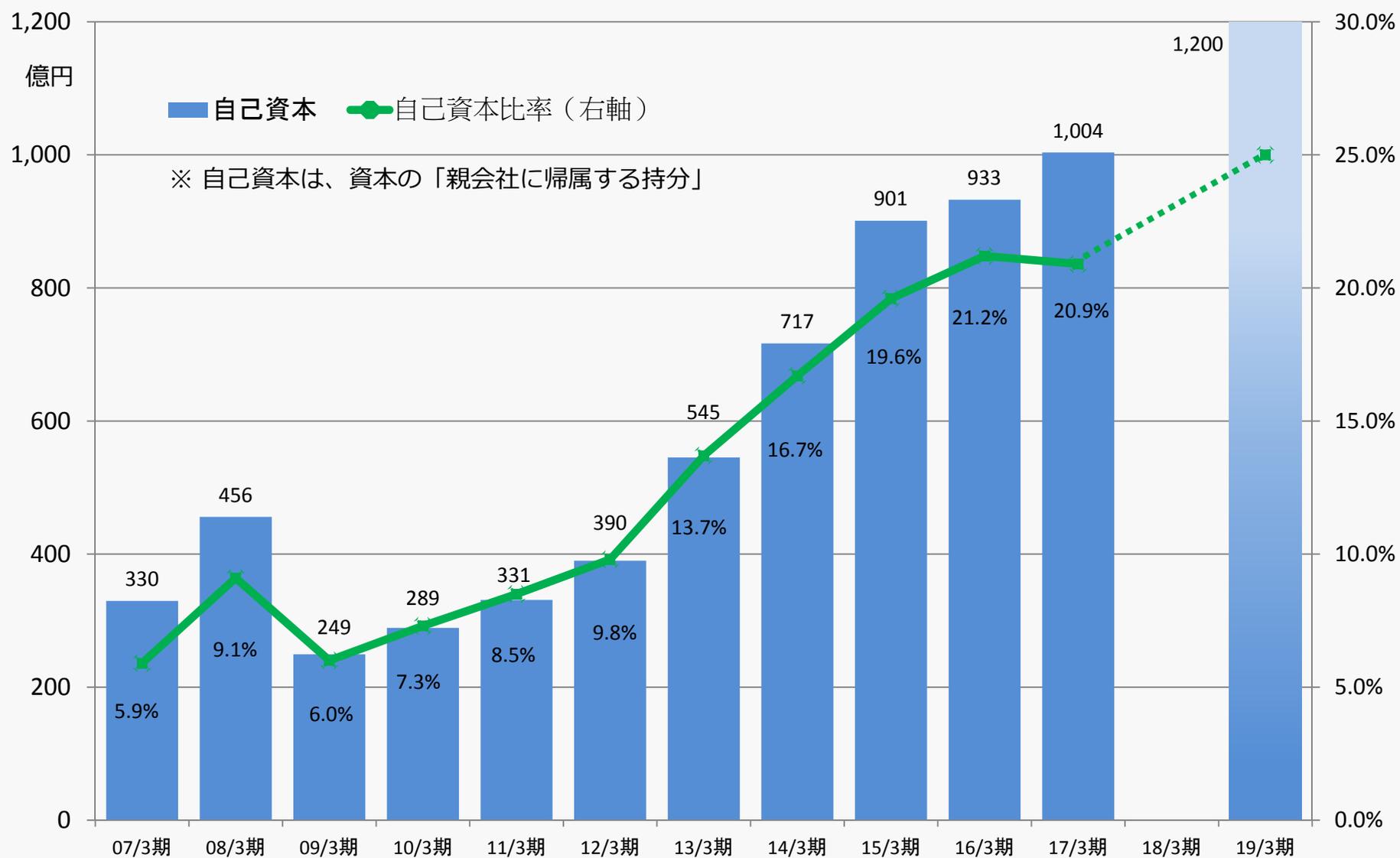
Appendix 1 – 1. 連結経常利益の推移（78/3月期～）



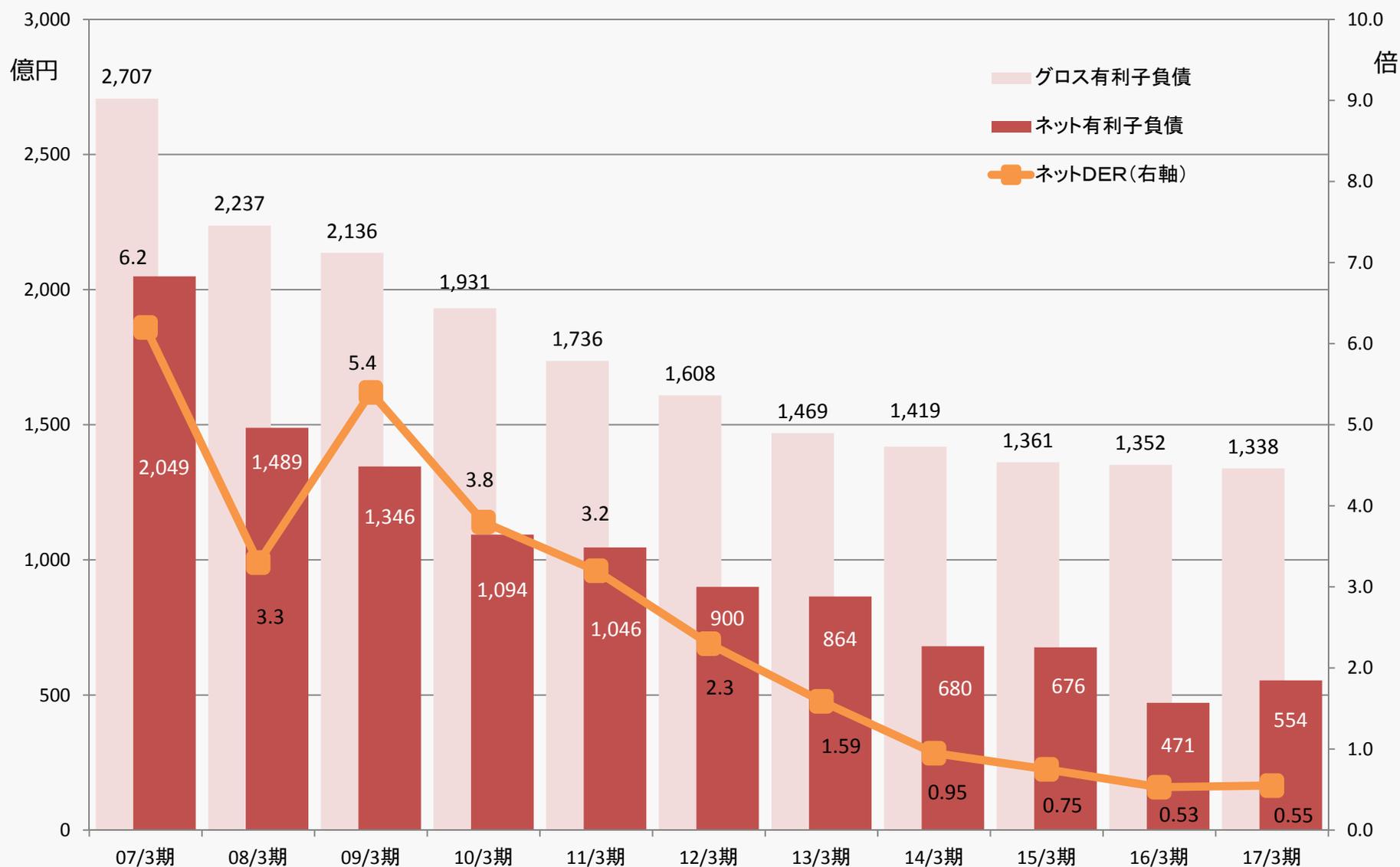
Appendix 1 – 2. 連結当期利益の推移 (99/3月期～)



Appendix 1 – 3. 自己資本と自己資本比率の推移



Appendix 1 – 4. 有利子負債とネットDERの推移



Appendix 2. 兼松グループの事業概要

| セグメント | 主要な事業 | 主要取扱商品 | 主要グループ会社 |
|----------------|---------------------|---|----------------------------------|
| 電子・デバイス | 半導体部品・製造装置 | 半導体・液晶パネルおよび製造装置、電子モジュール・部材 | 兼松エレクトロニクス |
| | 電子機器・電子材料 | プリンタおよび関連機器、リチウムイオン電池制御用モジュール | 兼松コミュニケーションズ |
| | ICT・モバイルソリューション | 情報・通信関連機器およびサービス、携帯通信端末、 モバイルインターネットシステム・サービス | 兼松サステック 兼松アドバンスド・マテリアルズ |
| | セキュリティ機器 | 防犯カメラ、レコーダー等各種セキュリティ機器 | |
| 食料 | 食品 | 缶詰・冷凍・ドライフルーツ、コーヒー、ココア、砂糖、ゴマ、 落花生、雑豆、ワイン、加工食品、調理食品 | 兼松新東亜食品 Kanemory Food Service |
| | 畜水産 | 畜産物、水産物 | 兼松アグリテック |
| | 穀物・飼肥料・ペット用製品 | 小麦、大麦、米、コーン、大豆、小麦加工食品、飼料、牧草、 肥料、ペットフード、ペット用品 | 兼松ソイテック ノースペット |
| 鉄鋼・素材・ プラント | 鉄鋼貿易 | 各種処理鋼板、シームレスパイプ | Steel Service Oilfield Tubular |
| | 特殊鋼貿易 | ステンレス、特殊鋼線材・条鋼 | Benoit Premium Threading |
| | 国内鉄鋼・鉄鋼原料 | 鉄鋼製品全般、鉄鉱石、コークス | 兼松トレーディング |
| | 原油・石油製品・ガス | 原油、石油製品、LPG、排出権ビジネス | 兼松ペトロ |
| | 機能性化学品、 ライフサイエンス | リチウム電池原料、太陽電池関連部材、医薬品・医薬中間体、 機能性食品素材、栄養補助食品 | 兼松ケミカル 兼松ウェルネス |
| | プラント・船舶 | 各種プラント、ODA案件、光ファイバー、 電力・通信プロジェクト、船舶、船舶用機材 | 兼松ケージーケイ |
| | 工作機械・産業機械 | 工作機械、産業機械 | |
| 車両・航空 | 車両・車載部品 | 二輪車、四輪車、車載部品、鋳鍛造部品、建設機械 | 兼松エアロスペース 新東亜交易 |
| | 航空宇宙 | 航空機・ヘリコプターおよび部品、衛星・宇宙関連製品 | KG Aircraft Rotables |

Appendix 3. 主要連結子会社の状況（収益・営業活動利益）

| (単位:億円) | 事業内容 | 持ち分比率 | 16/3月期 | | 17/3月期 | |
|--------------------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | 収益 | 営業活動利益 | 収益 | 営業活動利益 |
| 兼松エレクトロニクス | ICTソリューション | 58.28% | 600 | 67 | 626 | 83 |
| 兼松コミュニケーションズ | モバイル | 100% | 1,157 | 37 | 1,032 | 41 |
| 兼松サステック | セキュリティ機器等 | 52.88% | 108 | 10 | 122 | 9 |
| 兼松新東亜食品 | 食品・畜水産 | 100% | 210 | 3 | 249 | 4 |
| 兼松アグリテック | 飼料酪農 | 100% | 135 | 1 | 123 | 2 |
| 兼松トレーディング | 国内鉄鋼・鉄鋼原料 | 100% | 64 | 4 | 80 | 3 |
| 兼松ケージーケイ | 工作機械・産業機械 | 97.90% | 71 | 12 | 73 | 18 |
| 兼松ペトロ | 石油製品・ガス | 100% | 158 | 6 | 146 | 7 |
| 兼松ケミカル | 機能性化学品 | 100% | 48 | 6 | 48 | 7 |
| 新東亜交易 | 商社 | 100% | 320 | 12 | 238 | 11 |
| Kanematsu USA Inc. | 海外現地法人 | 100% | 408 | ▲ 2 | 331 | ▲ 5 |

Appendix 4. グループ会社の状況

グループ会社の黒字・赤字会社数

| (単位：社) | 16/3月期 | | | | | 17/3月期 | | | | | 前期対比 |
|--------|--------|-----|-------|-----|-----|--------|-----|-------|-----|-----|------|
| | 連結子会社 | | 持分法適用 | | 合計 | 連結子会社 | | 持分法適用 | | 合計 | |
| | 国内 | 海外 | 国内 | 海外 | | 国内 | 海外 | 国内 | 海外 | | |
| 黒字会社 | 37 | 38 | 11 | 12 | 98 | 39 | 35 | 10 | 14 | 98 | — |
| (黒字比率) | 86% | 81% | 100% | 75% | 84% | 93% | 76% | 83% | 88% | 84% | |
| 赤字会社 | 6 | 9 | 0 | 4 | 19 | 3 | 11 | 2 | 2 | 18 | ▲ 1 |
| 合計 | 43 | 47 | 11 | 16 | 117 | 42 | 46 | 12 | 16 | 116 | ▲ 1 |

グループ会社の黒字・赤字額

| (単位：億円) | 16/3月期 | | | | | 17/3月期 | | | | | 前期対比 |
|---------|--------|-----|-------|-----|-----|--------|------|-------|-----|------|------|
| | 連結子会社 | | 持分法適用 | | 合計 | 連結子会社 | | 持分法適用 | | 合計 | |
| | 国内 | 海外 | 国内 | 海外 | | 国内 | 海外 | 国内 | 海外 | | |
| 黒字額 | 81 | 11 | 4 | 2 | 100 | 105 | 7 | 3 | 2 | 117 | + 18 |
| 赤字額 | ▲ 2 | ▲ 5 | 0 | ▲ 0 | ▲ 7 | ▲ 1 | ▲ 17 | ▲ 25 | ▲ 0 | ▲ 43 | ▲ 36 |
| 合計 | 80 | 6 | 4 | 2 | 92 | 104 | ▲ 9 | ▲ 22 | 2 | 74 | ▲ 18 |

Appendix 5. 連結セグメント利益ブレイクダウン

セグメント営業活動に係る利益 見通し

| | | 億円 | | |
|---------------------|-------------|------------|---------------|-------------|
| | | 17/3月期 | 18/3月期 見通し | 増減 |
| 電子・デバイス部門 | ICTソリューション | 83 | 87 | + 3 |
| | モバイル | 45 | 45 | + 0 |
| | その他 | 15 | 14 | △ 1 |
| 電子・デバイス部門 | | 143 | 145 | + 2 |
| 食料部門 | 食品・畜産 | 14 | 12 | △ 2 |
| | 飼料酪農・穀物 | 8 | 19 | + 12 |
| | その他 | 3 | 4 | + 1 |
| 食料部門 | | 25 | 35 | + 10 |
| 鉄鋼・素材・プラント部門 | 工作機械・産業機械 | 18 | 14 | △ 4 |
| | 海外 | △ 8 | 7 | + 15 |
| | エネルギー・化学品 他 | 18 | 19 | + 0 |
| 鉄鋼・素材・プラント部門 | | 28 | 40 | + 12 |
| 車両航空部門 | 航空・宇宙 | 13 | 15 | + 2 |
| | 車両・車載部品 | 7 | 8 | + 0 |
| | その他 | 2 | 2 | + 0 |
| 車両航空部門 | | 22 | 25 | + 3 |
| その他 | | 8 | 5 | △ 3 |
| 合計 | | 226 | 250 | + 24 |

KCSとDTの合併による統合費用が発生するが、前期比ほぼ横ばいとなる見込み

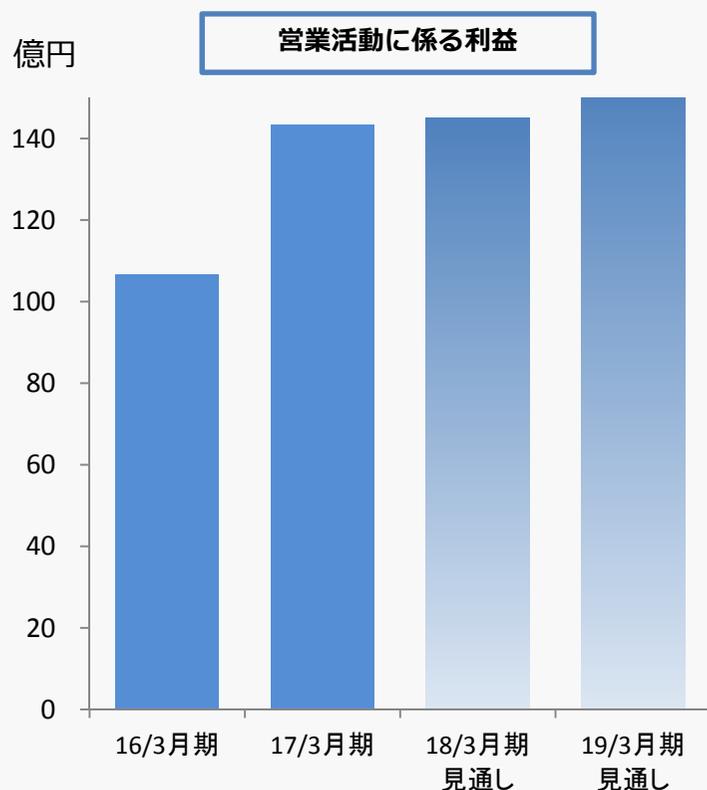
市況回復に伴い、前期対比増益を見込む

工作機械は前期好調の反動で減益を見込む

原油市況の回復により、北米油井管事業等が復調の見通し

Appendix 6 – 1. セグメント情報（電子・デバイス）

| (単位:億円) | 16/3月期 | 17/3月期 | 18/3月期 見通し | 前期対比 | 増減率 |
|-----------|--------|--------|---------------|------|------|
| 収益 | 2,350 | 2,543 | 2,600 | + 57 | 2.2% |
| 営業活動に係る利益 | 107 | 143 | 145 | + 2 | 1.4% |



17/3月期 実績

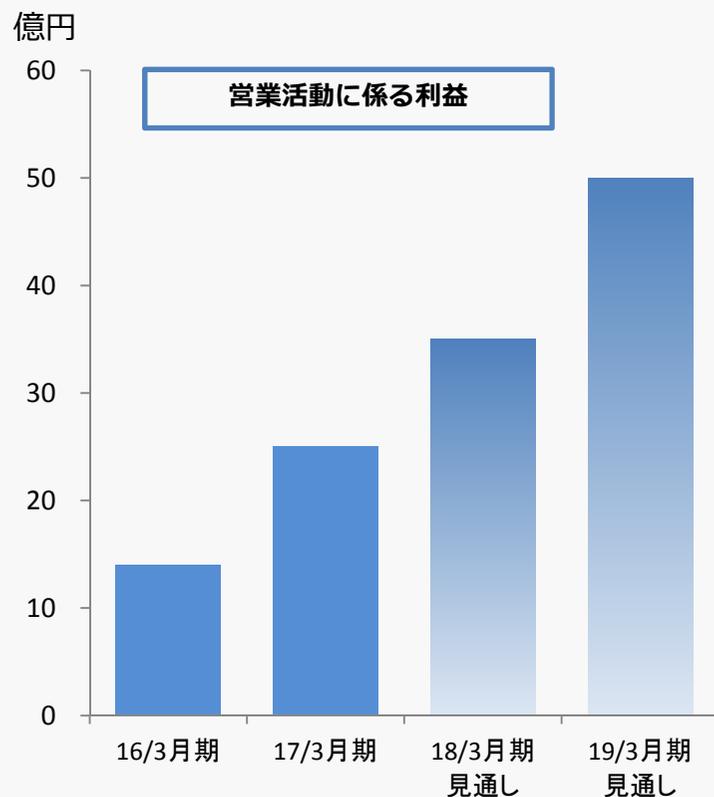
ICTソリューション事業は製造業向け取引が順調に推移。また、モバイル事業も事業規模の拡大により順調に推移する一方、半導体部品・製造装置事業は苦戦。

18/3月期 見通し

ICTソリューション事業を中心に順調に推移する見通し。モバイル事業は兼松コミュニケーションズとダイヤモンドテレコム統合による費用が発生するが、前期比ほぼ横ばいとなる見込み。

Appendix 6 – 2. セグメント情報（食料）

| （単位:億円） | 16/3月期 | 17/3月期 | 18/3月期 見通し | 前期対比 | 増減率 |
|-----------|--------|--------|---------------|------|-------|
| 収益 | 2,226 | 2,278 | 2,300 | + 22 | 1.0% |
| 営業活動に係る利益 | 14 | 25 | 35 | + 10 | 40.0% |



17/3月期 実績

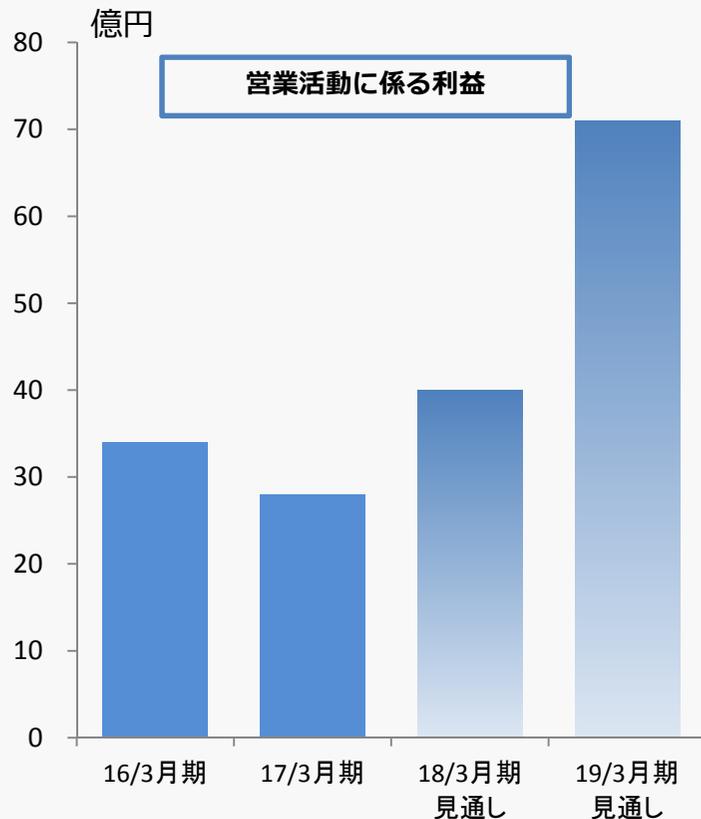
食品事業は堅調に推移。畜産事業が市況の回復を受け、先期の落ち込みから回復。
一方、食糧事業は国内飼料価格の下落により苦戦。

18/3月期 見通し

主に穀物・飼料事業の市況回復に伴い、前期比増益となる見通し。

Appendix 6 – 3. セグメント情報（鉄鋼・素材・プラント）

| (単位:億円) | 16/3月期 | 17/3月期 | 18/3月期 見通し | 前期対比 | 増減率 |
|-----------|--------|--------|---------------|-------|-------|
| 収益 | 1,353 | 1,312 | 1,500 | + 188 | 14.3% |
| 営業活動に係る利益 | 34 | 28 | 40 | + 12 | 42.9% |



17/3月期 実績

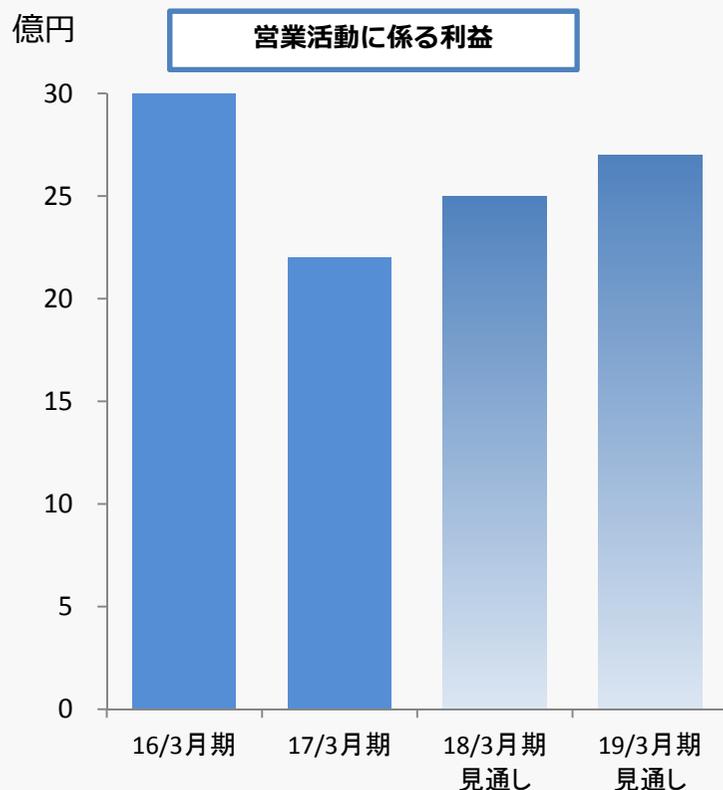
プラント事業は工作機械・産業機械取引が堅調に推移。エネルギー事業も冬場の需要に支えられ順調に推移。鉄鋼事業は原油価格の低迷を受け油井管事業が苦戦。

18/3月期 見通し

原油市況の回復により、北米油井管事業は復調の見込み。プラント事業は工作機械・産業機械関連取引において前期好調の反動で減益を見込む。

Appendix 6 – 4. セグメント情報（車両・航空）

| (単位:億円) | 16/3月期 | 17/3月期 | 18/3月期 見通し | 前期対比 | 増減率 |
|-----------|--------|--------|---------------|------|-------|
| 収益 | 638 | 504 | 500 | △ 4 | -0.8% |
| 営業活動に係る利益 | 30 | 22 | 25 | + 3 | 13.6% |



17/3月期 実績

車両・車載部品事業は順調に推移。
航空・宇宙事業は航空機部品取引が長期契約の
端境期のため減益。

18/3期 見通し

航空機事業は前期が端境期であり、今期は増益の
見通し。